

## 統合開発環境

# High-performance Embedded Workshop V.4.00.02 へのリビジョンアップのお知らせ

統合開発環境 High-performance Embedded Workshop を V.4.00.01 から V.4.00.02 にリビジョンアップしました。本バージョンは、High-performance Embedded Workshopのオートアップデート機能の対象になります。

### 1. 該当製品

以下の製品に含まれているHigh-performance Embedded Workshopが該当します。

- (1) M32Rファミリ用 Cコンパイラパッケージ  
M3T-CC32R V.4.20 Release 1 ~ V.4.30 Release 00
- (2) M32C/90, M32C/80, M16C/80, および M16C/70シリーズ用 Cコンパイラパッケージ  
M3T-NC308WA V.5.20 Release 1 および V.5.20 Release 02
- (3) M16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10, M16C/Tiny, および R8C/Tinyシリーズ用 Cコンパイラパッケージ  
M3T-NC30WA V.5.20 Release 1 ~ V.5.30 Release 02
- (4) R8C/Tinyシリーズ用 Cコンパイラパッケージ  
M3T-NC30WA V.5.20 Release 1 ~ V.5.30 Release 02(無償評価版)  
M3T-NC8C V.5.30 Release 1(専用無償版)
- (5) M16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10, M16C/Tiny, および R8C/Tinyシリーズ用  
M16C R8C デバッガパッケージ  
V.1.00 Release 00 および V.1.00 Release 01
- (6) M32C/84, M32C/85, M32C/86グループ用コンパクトエミュレータ  
M30850T2-CPE
- (7) M32C/87グループ用コンパクトエミュレータ  
M30870T2-CPE
- (8) M16C/TinyシリーズM16C/26AグループM30260用コンパクトエミュレータ  
M30260T2-CPE-GP
- (9) M16C/TinyシリーズM16C/26AグループM30263用コンパクトエミュレータ

M30263T2-CPE-FP

(10) M16C/TinyシリーズM16C/28グループM30280, M16C/29グループM30290用  
コンパクトエミュレータ  
M30290T2-CPE-HP

(11) M16C/TinyシリーズM16C/28グループM30281, M16C/29グループM30291用  
コンパクトエミュレータ  
M30291T2-CPE-HP

(12) H8/300H Tinyシリーズ用コンパクトエミュレータ  
R0E436640CPE10  
R0E436640CPE20

(13) SuperH RISC engineファミリ用 C/C++コンパイラパッケージ  
V.7.1.01 ~ V.9.00 Release 02

(14) H8, H8S, およびH8SXファミリ用 C/C++コンパイラパッケージ  
V.5.0.03 ~ V.6.01 Release 00

(15) E10A-USBエミュレータ  
HS0005KCU01H  
HS0005KCU02H

注意:

2005年1月26日発行RENESAS TOOL NEWS "統合開発環境 High-performance Embedded Workshop V.4.00.00 へのバージョンアップのお知らせ" (資料番号: RSO-HEW-050126D) の「4. E10A-USBエミュレータを使用しているお客様へのお願い」を必ず参照してください。

(16) E7エミュレータ  
HS0007TCU01H

(17) E8エミュレータ  
R0E000080KCE00

(18) E6000Hエミュレータ  
すべてのHigh-performance Embedded Workshop版 E6000Hエミュレータ

(19) E6000エミュレータ  
すべてのHigh-performance Embedded Workshop版 E6000エミュレータ

(20) E10Aエミュレータ  
すべてのHigh-performance Embedded Workshop版 E10Aエミュレータ

(21) E10Tエミュレータ  
すべてのHigh-performance Embedded Workshop版 E10Tエミュレータ

(22) E10T-USBエミュレータ  
HS0005TCU01H

(23) E200Fエミュレータ

## 2. 機能追加および改善

### 2.1 該当製品すべてが対象

- (1) ワークスペースウィンドウのProjectsタブをクリックすると表示される ウィンドウ上のポップアップメニューに「ツリーの縮小」および「ツリーの展開/縮小」コマンドを追加しました。
- (2) ワークスペースウィンドウのProjectsタブの中で選択した複数のファイルに対して、ファイルをビルドから除外したり、ビルドから除外したファイルを 再びビルド対象とすることができます(\*)。  
また、「ビルド」メニューに「ビルドから除外/除外の解除」コマンドを 追加しました。
  - \* 任意のソースファイルを選択し、右クリックすると表示される ポップアップメニューから「ビルドから除外」および「ビルドから除外 の解除」コマンドを選択する。
- (3) エディタウィンドウをソースモードで表示している場合、ポップアップ メニューにファイル名、ファイルの場所、およびファイル更新日時を表示させる「プロパティ」コマンドを追加しました。
- (4) エディタウィンドウの混合モードおよび逆アセンブリモード表示、ならびに逆アセンブリウィンドウ(\*)のウィンドウ上で表示されるポップアップ メニューにプログラムカウンタ(PC)が指し示すところを表示する「PC位置を 表示」コマンドを追加しました。
  - \* 「表示」メニューを開き「逆アセンブリ」コマンドを選択すると表示します。
- (5) アクティブプロジェクトのディレクトリ下に含まれないソースファイルは、 エディタウィンドウで表示(\*)中のファイル名に絶対パスを付加してタイトルバーに表示するようにしました。
  - \* ワークスペースウィンドウのProjectsタブに表示されているファイル名をダブルクリックすると表示します。
- (6) 逆アセンブリウィンドウの表示フォントのサイズを11から10へ変更しました。
- (7) Buildタブを選択しているアウトプットウィンドウ上で表示されるポップ アップメニューのコマンドにキーボードショート



- (14) コマンドラインウィンドウからSTEP\_RATEコマンドを入力して、ステップ実行する際にエディタウィンドウをリフレッシュしない「モード7(“STEP\_RATE 7”)」を追加しました。  
入力例：

```
-----  
>STEP_RATE 7  
-----
```

## 2.2 該当製品(13)および(14)が対象

- (1) Mapウィンドウ(\*)上の任意の位置で右クリックして開くポップアップメニューにメモリマップを設定する「メモリマップの設定」コマンド、およびメモリリソースを自動確保する「メモリリソースの自動確保」コマンドを追加しました。

\* 「表示」メニューを開き「マップ」コマンドを選択すると表示します。

## 2.3 該当製品(13)～(23)が対象

- (1) 以下のウォッチ機能のコマンドを追加しました。各コマンドのパラメータにつきましては、High-performance Embedded Workshopのオンラインヘルプ(\*1)を参照してください。

コマンド名	内容
WATCH_ADD	Watchアイテムの追加
WATCH_AUTO_UPDATE	Watchアイテムの自動更新の設定または解除
WATCH_DELETE	Watchアイテムの削除
WATCH_DISPLAY	ウォッチウィンドウ(*2)の内容の表示
WATCH_EDIT	Watchアイテムの値の編集
WATCH_EXPAND	Watchアイテムの展開または縮小
WATCH_RADIX	Watchアイテムの表示基数の変更
WATCH_SAVE	ウォッチウィンドウの表示内容をファイルに保存

\*1. 「ヘルプ」メニューを開き「トピック」コマンドを選択すると表示します。

\*2. 「表示」メニューを開き「シンボル」→「ウォッチ」コマンドを選択すると表示します。

- (2) 「ラベルの検索」ダイアログボックス(\*)に「単語単位で探す」オプションを追加しました。

\* ラベルウィンドウ上でポップアップメニューを開き「検索」コマンドを選択すると表示します。(ラベルウィンドウは「表示」メニューを開き「シンボル」→「ラベル」コマンドを選択すると表示します。)

#### 2.4 該当製品(18)のHS0AE5EPH60Hおよび

(19)のHS0AE4EPI61HおよびHS0AE4XEPI61Hが対象

ユーザプログラムを実行している際に下記のコードカバレッジコマンドを入力すると、エラーメッセージを表示するようにしました。

COVERAGE\_CLEAR、COVERAGE\_DISPLAY、COVERAGE\_LOAD、COVERAGE\_RANGE、およびCOVERAGE\_SAVEコマンド

#### 2.5 該当製品(15)、(18)、(19)、および(23)が対象

MONITOR\_SETコマンドのキーワード付きパラメータ入力時に name <monitor-window name (モニタポイント名)>を入力することにより、自動的にキーワード付きパラメータと判定します。キーワード付きパラメータ入力時は“name <monitor-window name>”を指定してください。

例：MONITOR\_SET name monitor1 ffb400 20 format byte

注意事項：

- (1) 該当製品(15)については、New\_SH-Mobile、SH-4A、またはSH-2AデバイスグループMCUをデバッグの対象とする場合のみ本機能が有効です。
- (2) 該当製品(19)のうち以下の型名製品はオプションのバスモニタボードを E6000に接続している場合のみ本機能が有効です。

HS2195EPI60H, HS3008EPI60H, HS3644EPI60H,  
HS3L08EPI60H,  
HS388REPI60H, およびHS3800EPI60H

参考：キーワード付きパラメータ時のコマンドラインシンタックス

```
name <monitor-window name> [<address> <size>] [format <format>]  
[type <type>] [rate <refresh_rate>][initial_value <state>]  
[detail <user specific value according to respective Target Emulator>]  
[]は省略可能なパラメータを示す。
```

### 3. 問題改修

### 3.1 該当製品すべてが対象

以下の問題を改修しました。

(1) カスタムプレースホルダに関する注意事項

詳細は2005年06月16日発行のRENESAS TOOL NEWS "High-performance Embedded Workshopご使用上のお願い--カスタムプレースホルダについて --" (資料番号 : RSO-HEW\_2-050616D) を参照してください。

(2) エラーメッセージを表示している行がハイライトで表示されない問題

アウトプットウィンドウのBuildタブをクリックし、そのウィンドウの中で 右クリックすると表示するポップアップメニューの「次エラー/ウォーニング の表示」コマンドおよび「前エラー/ウォーニングの表示」コマンドを 選択しても、そのウィンドウに表示されているエラーメッセージの行が ハイライトで表示されない場合がある。

(3) Microsoft(R) Visual SourceSafe (VSS) に登録される文字列の問題

バージョン管理ツールにVSSを選択しログインする(\*)際に入力する プロジェクト名、およびプロジェクトのファイル名に大文字が含まれていても、VSSに小文字で登録される。

\* 「ツール」メニューを開き「バージョン管理」->「選択」コマンドを選択して「バージョン管理ツールの選択」ダイアログボックスをオープンします。このダイアログボックスの「バージョン管理ツール」 リストからVSSを選択してOKボタンをクリックするとVSSのログイン画面が表示されます。

(4) C++ Classesカテゴリツリー(\*)に関数ポインタを間違って表示する問題

ワークスペースウィンドウのNavigationタブをクリックし、そのウィンドウ上のC++ Classesカテゴリツリー\*を展開することによりソースファイルで 定義している関数ポインタを表示する際、表示内容が間違っている場合がある。

例えば、ソースコード"long (\*proc());"がC++ Classesカテゴリツリーに表示される場合は、関数名ではなく"()"または"(\*proc())"が表示される。

\* Navigationタブのポップアップメニューを開き、「カテゴリの選択」コマンドを選択すると表示するダイアログボックスで、 C++ Classesチェックボックスをチェックした場合に表示します。

(5) C++ Classesカテゴリツリーに構造体配列型変数を間違って表示する問題

ワークスペースウィンドウのNavigationタブをクリックし、そのウィンドウ上のC++ Classesカテゴリツリー\*を展開することにより ソースファイルで定義している構造体配列型変数を表示する際、 その変数名以外のコードも表示される場合がある。

例えば、下記のソースコードがC++ Classesカテゴリツリーに表示される場合は、構造体配列型変数"rate"の他に、間違って'[', ']', および'3'が表示される。

例 :

```
-----  
struct name {
```

```
char str;  
} rate[3];
```

-----

- (6) 逆アセンブリウィンドウに表示されているラベル名が消えない問題  
デバッグングプラットフォームとの接続を解除後、再接続した際に消去されるはずのラベル名が逆アセンブリウィンドウに表示されたままである。
- (7) エディタウィンドウに表示されているプログラムカウンタ(PC)が指し示す ところを示すマーク(黄色の右矢印)が消えない問題
  - ・ ダウンロードしたモジュールをアンロードしてもエディタ ウィンドウに表示されているPCの位置を示すマークが消えない。
  - ・ デバッグングプラットフォームとの接続を解除、または接続を 解除後に再接続しても、エディタウィンドウに表示されている PCの位置を示すマークが消えない。
- (8) Windows Meで"Out of memory"エラーメッセージが表示される問題  
Windows Meを搭載しているPC上で製品をご使用の場合、 ファイルを開く ダイアログボックス(\*)の「ファイルの場所」プルダウンメニューから マイコンピュータまたはマイネットワークを選択すると、 "Out of memory"エラーメッセージが表示される。  
\* メニュー「ファイル」→「開く」コマンドを選択すると表示します。
- (9) 差分ウィンドウ(\*)の右側部分がツールバーボタンで検索できない問題  
差分ウィンドウの右側部分（比較元ファイル） をクリックしてから 「検索」ツールバーボタンを選択し検索を実行しても、 入力した文字列が左側のウィンドウでのみ検索され右側のウィンドウでは検索されない。  
\* 「ツール」メニューを開き「ファイルの比較」コマンドを選択すると表示するダイアログボックスで、 比較元および比較先ファイル を入力すると表示されます。

### 3.2 該当製品(5)および(12)が対象

RAMモニタ領域設定ウィンドウ(\*)を開いた後にセッションを切り替えると High-performance Embedded Workshopが終了する場合があります問題を改修しました。

\* 「表示」メニューを開き「CPU」→「RAMモニタ」コマンドを選択すると表示します。

### 3.3 該当製品(13)～(23)が対象

以下の問題を改修しました。

- (1) デバッグングプラットフォームとの再接続時の注意事項  
詳細は2005年06月16日発行のRENESAS TOOL NEWS "統合開発環境High-performance Embedded Workshopご使用上のお願い"（資料番号：RSO-HEW\_1-050616D）を参照してください。
- (2) メモリウィンドウ(\*)でのメモリマップ範囲の問題  
メモリマップ範囲外のアドレスのデータをメモリウィンドウに表示させると正しくない値

が表示される。

また、その状態でメモリウィンドウをスクロールしたりメモリ値を編集すると、表示が不規則に変化する。

\* 「表示」メニューを開き「CPU」、「メモリ」コマンドを選択すると表示します。

(3) ビットシンボルの値を正しく表示、または編集できない問題

ELF/DWARF2フォーマットで作成されたロードモジュールをデバッグ時、ウォッチウィンドウ(\*1)上でビットシンボルの値を正しく表示、または編集できない。

インスタントウォッチ(\*2)およびツールチップウォッチ(\*3)機能を使用した場合も正しく表示できない。

ビットシンボルの定義例 (H8C)

```
-----  
.CPU 2600A:32  
AD1 .EQU H'00FFFF00  
AD2 .EQU H'00FFF800  
AD1B0 .BEQU 0,AD1 <- ビットシンボル  
AD1B1 .BEQU 1,AD1 <- ビットシンボル  
AD2B2 .BEQU 2,AD2 <- ビットシンボル  
AD2B3 .BEQU 3,AD2 <- ビットシンボル  
  
.SECTION A,CODE,ALIGN=2  
BSET.B AD1B0  
BSET.B AD1B1  
BSET.B AD2B2  
BSET.B AD2B3  
  
.export _main  
_main:  
rts  
.end  
-----
```

\*1. 「表示」メニューを開き「シンボル」→「ウォッチ」コマンドを選択すると表示します。

\*2. エディタウィンドウ上でシンボルを選択し右クリックしてポップアップメニューを開き「インスタントウォッチ」コマンドを選択すると表示します。

\*3. エディタウィンドウ上でシンボルにマウスカーソルを置くと表示します。

3.4 該当製品(15)、(18)、(19)、および(23)が対象

2005年04月16日発行のRENESAS TOOL NEWS "統合開発環境High-performance

Embedded Workshopご使用上のお願い--モニタ設定時の注意事項 --"（資料番号：RSO-HEW\_2-050416D）で連絡した問題を改修しました。

問題の詳細は以下を参照ください。

注意事項：

- (1) 該当製品(15)については、New\_SH-Mobile、SH-4A、またはSH-2AデバイスグループMCUをデバッグの対象とする場合のみ本問題が発生します。
- (2) 該当製品(19)のうち以下の型名製品はオプションのバスモニタボードを E6000に接続している場合のみ本問題が発生します。  
HS2195EPI60H, HS3008EPI60H, HS3644EPI60H,  
HS3L08EPI60H, HS388REPI60H, およびHS3800EPI60H

### 3.5 該当製品(15)、(18)、(19)、および(23)が対象

逆アセンブリウィンドウのEventカラム(\*)上に表示されているマーク(丸印)が消えない問題  
逆アセンブリウィンドウのデバッグプラットフォームを使用中に表示される Eventカラム上で右クリックをしてポップアップメニューを開き、「Delete All」コマンドを選択しても、そのカラム上に表示されているマークが消えない場合がある問題を改修しました。

- \* エディタウィンドウの左側にある余白部分（カラム）の上  
にマウスマウスカーソルを置くとカラム名を表示します。

## 4. リビジョンアップ方法

無償でオンラインリビジョンアップできます。

開発環境ホームページからアップデートプログラムをダウンロードして実行してください。

日本語版

英語版

## 5. 注意事項

- (1) High-performance Embedded Workshop V.2.2以上がインストールされていない場合、High-performance Embedded Workshop V.4.00.02 へはリビジョンアップできません。
- (2) High-performance Embedded Workshop以外のコンポーネント（Cコンパイラ、エミュレータ等）はリビジョンアップされません。
- (3) SuperH RISC engineファミリ C/C++コンパイラパッケージは、V.7.1.03、もしくはV.7.1.04へアップデートしてか

ら、High-performance Embedded Workshopをリビジョ  
ンアップしてください。

H8, H8Sおよび H8SXファミリ C/C++コンパイラパッケー  
ジは、V.5.0.05、もしくはV.5.0.06へアップデートしてか  
ら、High-performance Embedded Workshopをリビジョ  
ンアップしてください。

---

**[免責事項]**

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。  
ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.